

J PFP 国際人口問題議員懇談会

Japan Parliamentarians Federation for Population

NEWS LETTER

No.14 February 2014

● 「人間の安全保障」と「ポスト 2015 年国際開発目標」

ミレニアム開発目標(MDGs)の達成期限である2015年が迫る中、2015年以降の国際開発目標、いわゆる「ポスト 2015 年開発目標」について、国連を中心に政府や市民社会の間でも、様々な議論が行われています。昨年9月に開催された国連総会では、今後の道筋として、2014年9月の国連総会で「ポスト 2015 年開発目標」採択のための政府間交渉を開始し、2015年9月の首脳級サミットで新目標を採択することが合意されました。

貧困削減、母子保健の向上、ジェンダー平等の確立、環境保全など、8つの分野ごとに明確な数値目標を掲げたMDGsは、包括的な視点が欠けていたという指摘もあります。日本政府は、「人間の安全保障」を指導理念の一つに位置付け、ポスト 2015 年開発目標の策定に向けた議論に貢献することを表明しています。

また日本政府は、人間の安全保障の理念を具現化する上で、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC: 全ての人々が基礎的保健医療サービスを受けられること)」を代表的な取り組みとして、ポスト 2015 年開発目標におけるUHCの主流化にも力を入れています。これは、予防や保健教育を含めたプライマリーヘルスケアに対するアクセスを改善し、かつ利用者による医療費の直接負担を減らすことが中心となります。

さらに、ポスト 2015 年開発目標には、人口の視点を盛り込むことが極めて重要となります。そうすることで、

ミレニアム開発目標(MDGs)

国連ミレニアムサミットで採択され、2015年を達成期限とするグローバルな目標。



目標1 極度の貧困と飢餓の撲滅



目標2 普遍的初等教育の達成



目標3 ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上



目標4 乳幼児死亡率の削減



目標5 妊産婦の健康の改善



目標6 HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止



目標7 環境の持続可能性の確保



目標8 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

※MDGsのロゴは、NGO・ほっとけない世界のまっしさまじさ(GCAPジャパン)が作成

- ① 家族計画を含むリプロダクティブ・ヘルスサービスをすべての人が利用できるようにすることで、世界中の妊産婦死亡と「望まない妊娠」の大幅な削減が見込まれます。
- ② 持続可能な開発の前提条件となる、人口の安定化をもたらすことができます

国際人口問題議員懇談会(JPFP)事務局を務めるアジア人口・開発協会(APDA)は、2月10～13日にウガンダで「アジア・アフリカ国会議員会議」を主催しますが、そこでも「ポスト2015年開発目標」に人口問題を統合するため戦略が、アジア・アフリカ議員の間で協議される予定です。

人口と開発に関する議員活動は、日本のリーダーシップのもと、世界各地で大きな発展を遂げてきました。今後の世界の開発の潮流に大きな影響を与える、この重要な2015年目標策定プロセスでも、日本のリーダーシップが期待されています。



国際人口問題議員懇談会(JPFP)事務局
(公財) アジア人口・開発協会(APDA)
TEL: 03-5405-8846
FAX: 03-5405-8845
E-mail: apda@apda.jp
Website: <http://www.apda.jp>

入会をご希望の方は、apda@apda.jpまでご連絡くださいますようお願い申し上げます。

尚、本ニュースレターの配信停止をご希望の方は apda@apda.jpまでお願いいたします。